

地域連携NEWS

地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター
 TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

地方独立行政法人
 東京都健康長寿医療センター
 地域連携部医療連携室

Vol.49 2014.3 発行

〒173-0015
 東京都板橋区柴町35番2号
 TEL03(3964)1141(代表)
 FAX03(3964)1982(代表)

神経内科・脳卒中科のご紹介

神経内科 部長 村山 繁雄



神経内科部長
村山 繁雄



脳卒中科部長
金丸 和富

神経内科はもともと、脳神経外科・整形外科の内科部門を扱う診療科で、認知・運動機能障害を担当とします。病気にかかった部分の組織を取り出して検討した時に、異常が証明できる点で、歴史的に精神科と区別されてきましたが、両者の境界はしばしばあいまいです。

従って、神経内科の扱う領域は、認知症、脳血管障害という、東京都健康長寿医療センター中期経営計画の重点項目をふくみます。それ以外に、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症等の神経難病や、てんかんの機能疾患、筋ジストロフィー等の筋疾患等も専門に含みます。

米国で脳血管障害は、神経内科以外に、循環器科、脳神経外科、リハビリテーション科等が合同で脳卒中管理ユニットを構成するのが一般的ですが、急性期から慢性期まで患者様と寄り添いながら全経過をみるこ

とができるのは、神経内科医だけであると、米国における神経内科医師の最大の団体である、米国神経学会は宣言しています。これは、本邦においても同様であり、脳血管障害の生命・機能予後は、神経内科医が担当した方がよいことが、神経内科医の必要性を広めた原因のひとつです。

今回、神経内科医が脳卒中を中心となって診療していること、さらに脳神経外科・リハビリテーション科と連携を密に持ちたいとの希望で、新たに脳卒中科を設け、金丸和富がそちらの部長に転出しました。神経内科と脳卒中科は相互に兼務とし、これまで通りの体制を維持する予定です。

一方神経内科には、高齢者ブレインバンクの構築を行ってきた村山繁雄が就任し、これまで精神科と一緒に中心を担ってきた認知症に加え、パーキンソン病や神経・筋疾患も含め、老年期神経学の拠点を築くことを目的にしていこうと予定しています。

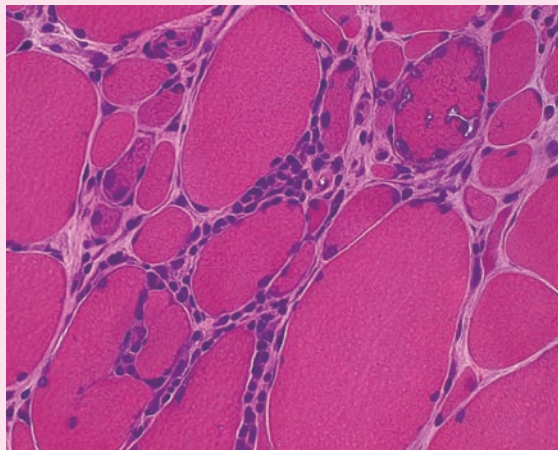
東京都健康長寿医療センターは、1972年に設立された当初より、研究所と病院が一体となっており、村山は東京大学神経内科よりセンターに転出するにあたり、臨床と研究を半分ずつ行うことが条件となっておりました。従って、赴任以来、外来、回診の最終臨床診断責任を負うかたちで勤務して参りました。

裏面へつづく

予約専用電話	検査予約	医療連携室
(外来予約専用) 03 (3964) 4890 (対応時間) 月～金 9:00～17:00 当センターは紹介予約制です。ご紹介の際は、紹介状とご予約をお願いいたします。	(代表電話番号) 03 (3964) 1141 (対応時間) 月～金 9:00～17:00 ◎CT、MRI、骨密度 (内線2187) ◎RI (SPECT・PET検査) (内線2154) 検査科にてスムーズな予約対応を行っております。	連携室直通電話を開設いたしました。 03 (3579) 6963 (対応時間) 月～金 9:00～17:00 医療連携についての問い合わせ 03 (3964) 1141 (代表電話番号) (医療連携室内線: 1139、1140、1141、1142) FAX 03(3964)1392 (医療連携室直通) ホームページ: http://www.tmgig.jp/ (過去の地域連携 NEWS、講演会のご案内、医療連携室のご案内はホームページでご覧いただけます。)

今回老年期神経疾患の拠点構築にあたり、パーキンソン病の専門家として慈恵医科大学より仙石錬平講師に赴任いただきました。また神経・筋疾患の拠点構築のため、神経生理検査の専門家で、帝京大学神経内科園生教授の一番弟子である東原先生に、赴任いただきました。今後さらに、てんかんをはじめとする機能疾患の拠点を構築していくつもりです。

私達の希望は、患者様に寄り添い、発症から最後までをみとる、昔ながらの医師をめざすことです。しかし、医療費高騰をさけるための、在院期間短縮を達成しないと、高度先進医療を守れない状況があります。実際来年度からはさらに在院日数を短縮しないと、現在の看護体制を維持できない縛りが厚生労働省よりの指導で科せられてきました。



封入体筋炎は、筋肉のアルツハイマー病とも呼ばれ高齢者に多く、筋力低下の原因となります。診断には筋生検と、凍結筋組織化学検索が国際標準ですが、保険診療として認められておらず、センターでは研究費を用いて行っています。

病診連携、病病連携をとることで、この難題に取り組んでいく必要があります。また、大学附属病院、厚生労働省管轄病院とは異なる当センターの場合、よりはっきりした特徴を出さないと、これまで高齢者在宅支援総合救急病院としての機能が維持できなくなる可能性があります。

この面においても、病院・研究所が一体となって取り組んで来た伝統を活用する必要があります。東京都の研究所が全て医学総合研究所に集約され病院から切り離されたのに対し、老人総合研究所が老人医療センターと一緒に当センターを構築したのは、村山が行ってきたように病院医師と研究所研究者が、兼務のかたちで相互に協力し、高齢者医療に無私の貢献をしてきたこと、また高齢者ブレインバンクに代表される研究リソースを構築し、日本のみならず世界の研究者に貢献してきた、二つの伝統が元となっています。

今後も患者様・医師・研究者の共同作業としての老化克服の努力において、中心となる役割を果たしていく所存です。

よろしく申し上げます。

第2回

神経内科・脳卒中科セミナーのご案内

『新しい脳塞栓2次予防』

日時 平成26年4月14日(月) 19時20分～21時00分

場所 東京都健康長寿医療センター 3階第3会議室A・B

内容 【症例検討】

演者 東京都健康長寿医療センター 救急診療部長・循環器内科専門部長 坪光雄介

【特別講演】

「新・ガイドラインからみる抗凝固療法」

～超高齢化社会の日本におけるアピキサバンの位置づけを考える～

演者 国立病院機構 大阪医療センター 臨床研究センター長 是恒 之宏 先生

共催 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

プリストルマイヤーズ株式会社 ファイザー株式会社

後援 板橋区医師会

セミナーは日医生涯教育制度1.5単位の対象予定です。駐車場もご用意しております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



第1回3月3日

『新しいてんかん治療』
50人以上の方の参加を
いただきました。



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

TOKYO METROPOLITAN GERIATRIC HOSPITAL AND INSTITUTE OF GERONTOLOGY

アクセス

- 東武東上線「大山」駅下車、南口・北口より徒歩4分
- 都営地下鉄三田線「板橋区役所前」駅下車A2出口より徒歩11分

また、お車でお越しの方に駐車場(駐車料無料)も御用意しております。駐車台数に限りがあることを、あらかじめご承知おきください。

